

2022 年度大分県高等学校新人登山競技大会 予報 1 号（訂正版）

■大会山域・用語について

本大会の会場は国東半島である。国東半島は大分県の北東に位置し、九州と四国・中国地方に突き出すように存在している。半島南側の別府湾と北側の周防灘を分け、東側には瀬戸内海と伊予灘があり、瀬戸内海国立公園の一部である。北部の海岸線はリアス海岸となっている。また、半島南東部には大分空港があり、近年は宇宙港として話題を呼んでいる。国東半島全体はお椀を伏せたような地形をしており、おおよそ半島の中心部にそびえ立つ「両子山（720.6m）」を中心とし、両子火山群と呼ばれる山々がそびえ立ち、放射状に谷が発達した地形である。幾つもの谷が半島内を貫いており、会場地域の多くは「国見谷」と呼ばれる谷に含まれる。

国東半島に広がる寺院や山々には「六郷満山」と呼ばれる山岳仏教文化が形成されている。これは古来よりあった山岳信仰の場に、仏教（天台宗）と宇佐八幡の八幡信仰（神道）を取り入れた仏教文化のことであり、「神仏習合」思想ともいえる。「六郷」とは、来縄（くなわ）・田染（たしぶ）・伊美（いみ）・国東（くにさき）・安岐（あき）・武蔵（むさし）の 6 つの地域を指しているといわれ、大会山域は「伊美」地区である。また、満山とは学問をするため本山（もとやま）、修行をするための中山（なかやま）、布教をするための末山（すえやま）を指す。

この六郷満山の開いたとされる人物が仁聞（にんもん）である。奈良時代に国東半島の各地に 28 の寺院を開基したと言われているが、実際は、長い歴史の中で生み出されてきた架空の人物であるようだ。それほどまでに、国東半島で育まれた仏教文化は奥が深い。

現在、六郷満山文化の中で形成された六郷満山峯入行の道のりをベースに「国東半島峯通ロングトレイル」（以下、ロングトレイル）が整備されている。このロングトレイルは、国東半島で古くから行われてきた六郷満山峯入行（ろくごうまんざんみねいりぎょう）のコースをベースに、トレッキングやウォーキングの醍醐味を味わうことのできる登山道や遊歩道を追加するなどの工夫が加えられ、楽しく、心地よく歩けるトレイルとして再構成されたものである。

ちなみに、今回のルートに含まれている旧千燈寺跡は、仁聞入滅の地とされている。「入滅」とは高僧の死を指す言葉であり、仏語では人間の迷いを捨てて悟りの境地にはいることとされる。みなさんも是非、「なぜ私は山に登っているのだろう」という迷いを捨て、悠久の時を感じながら一歩一歩を踏みしめて欲しい。

■ルート概況

本大会の幕営地及び大会 2 日目の行動開始は旧国東高等学校双国校（以下、双国校）である。双国校は大分県下に二つ存在していた分校の一つであり、国東高校の分校であったが、昨年度 3 月に惜しまれつつ 74 年の歴史に幕を閉じた。閉校した学校ではあるが、地域住民や卒業生にとっては今もなお大切な存在であり、施設設備は大切に使う。

双国校から千燈寺先のトイレまではチーム行動である。まず、双国校を出発してすぐの県道 31 号線（山香国見線）沿いを南に向かって歩いて行く。暫くコンクリートの県道歩きが続くが、本格的な山歩き前の前哨戦と思って肩慣らしをしよう。途中、旧道とバイパス道とを分ける交差点が表れ、そのまま旧道を歩く。間もなく千燈寺の前を通りすぎ千燈寺駐車場へとたどり着く。ここがチーム行動の終了地点である。トイレ等を済ませておこう。

ここからは隊行動となるが、メインザックはデポし、サブザックで行動する。荷物はチームごとにまとめて整理整頓しておこう。さて、鷲巣岳を目指して、千燈寺先のトイレを出発する。先ほど歩いてきた道を北向きにやや戻り、再び千燈寺の前を通りすぎ、バス停「久保」を通り過ぎたら、その先にある電柱のワイヤーに付けられたピンクテープを目印に、左折して林道へと入ろう。

これより先は、林道歩きがしばらく続く。途中、左手にため池を見ながらさらに歩を進めていき、ピンクテープが付けられた木を目印に右手の尾根道へと入り、進路を西へと変える。尾根伝いに歩き、途中でやや北向きにトラバースすると開けた谷に出る。この谷を跨ぐと、整備された未舗装の林道に出会う。この道をそのまま少し進むと、右手の木にピンクテープの目印がつけられているので、ここから尾根道にと登っていき。尾根伝いにしばらく歩くと、再びコンクリートで舗装された林道に合流する。林道を左手に進むと、まもなく右手にピンクテープと鹿の頭蓋骨がかけられた木が現れる。

ここからいよいよ鷲巣岳の急登である。ピンクテープや赤テープを見落さないよう注意しながら歩こう。この場所は特に浮き石が多い。前後の間隔をしっかりと取り、いざという時に備えたい。小さな石であっても、急傾斜であるため、落とせば相当に危険である。まして大きな石となれば、なおさらである。もし誤って石を落としてしまった場合には、「ラクッ」と大きな声で叫び、下にいる登山者に必ず伝えること。また、枯れた木を持ち、それが折れて滑落してしまうケースや、滑りやすい土でスリップしてしまうケースもある。この急登では慎重な行動が求められる。

登っていると、度々巨石が表れる。一つ目から三つ目の巨石はすべて右に巻いて進んでいく。急登の登りを進めていくと途中で小さな石を幾重にも重ねた石垣のような人工物が表れ、ちょっとした広場となっている。ここが「天疫神（てんやくじん）岩屋」である。疫病避けの神様が祀られており、古の人々が祈ってきたように、現代の我々を悩ます疫病の退散を願いながら先へと進もう。天厄神岩屋を左へ進むとさらに傾斜がきつ

くなっていくが、日頃の体カトレーニング、そして歩行技術の成果を発揮してほしい。

傾斜のきつい急登を登りつめると、鷲巣岳に広がるメサ台地の作り出す崖の下へとたどり着く。メサ台地は別名、「テーブルマウンテン」とも呼ばれ、日本では珍しい地形である。大分県では玖珠町の伐株山や万年山が有名だ。しばらく鷲巣岳の崖に沿うように南へ進んでいく。崖下の歩きは心地よく、この辺りで最後の急登への体力を養おう。

鷲巣岳の南端が近づくと進路を南に変え、三角点の南側から回り込むように山頂に向けての急な崖登りが始まる。ここから山頂へは崖にへばりつくように登っていくため、滑落には十分に注意して登りたい。途中、千燈岳方面の展望が良い開けた場所がある。トラロープが取り付けられているが、ロープだけに頼ることなく、三点確保を意識しながら登っていこう。ただし、ホールドやスタンスが浮き石でないかどうかのチェックは必須である。浮き石であった場合は、下手に動かさずそのままにしておき、後続のメンバーに浮き石があることをしっかりと伝えること。

最後の崖登りが終わると風天様や不動明王の石像の祀られた場所が表れ、その先が鷲巣岳（436.4m）山頂である。鷲巣岳では古くは祭事が行われていた為、遺跡が多く残っている。そうした祭事も昭和の時代に行われなくなり、鷲巣岳へのバラエティーに富んだ登山道も廃れてつつある。残念な限りである。

ここから鷲巣岳を下るが往路は使わずに大不動岩屋・尻付岩屋を経由して、サブザック行動のスタート地点の千燈寺駐車場を目指す。山頂の三角点傍から西への下降点を示すピンクテープを探そう。道自体はピンクテープがしっかりとつけてあり、場所によってはトラロープが張られているため迷うことはないだろう。しかし、山頂直下の下りは距離が短いながらも傾斜がきつく、滑る場所もあるため注意したい。

傾斜が緩くなり、しばらく鷲巣岳山頂に広がる崖下に沿って進むと、崖の南端から進路を南西に変えてピンクテープが続いている。鞍部を越えて少し登り返すと、木が伐採されて開けた場所に出る。ここからは西側に広がる西方寺方面の展望が良く、スリル満点で有名な中山仙境や、堂明がある夷谷（えびすだに）方面がよく見える。さらに進むと、国東半島の山々に良く見られる痩せ尾根へと辿りつく。展望はとても良い。東側には我々が目指す不動山、千燈岳をはじめ、文珠山、電波塔の立つ両子山なども望むことができる。また、西側は黒木山や尻付山、ハジカミ山、遠くは猪群山方面の展望が良い。

痩せ尾根をすぎるとロングトレイルのコースと合流し、ここが阿弥陀越（あみだごし）である。阿弥陀越を左折し、谷へと下っていこう。道ははっきりとしており、歩きやすい。しばらくすると木のベンチがあり、ここが「大不動岩屋（おおふどういわや）」への分岐である。大不動岩屋などの「岩屋」と呼ばれる場所は国東半島の各所にあるが、それらは修行の場、祈りの場である。敬虔な気持ちで足を踏み入れたい。大会時は大不動岩屋には寄らないため、各チームで試走に行った際は是非訪れてほしい。伊美川の西側、鷲巣岳周辺に点在する「大不動石屋・小不動石屋・大藤石屋・天疫神石屋・妙見石屋」などの岩屋を「西不動」という。対して東側、千燈岳周辺に広がる岩屋を「東不動」

という。岩屋にあった石仏などは、そのほとんどが千燈寺や西方寺地区にある中ノ谷不動堂などへと移されている。

大不動岩屋をすぎて、舗装された林道と合流したら左折する。しばらくすると標識があるので、それに従って右折し、やや荒れた未舗装の林道へと進もう。荒れた林道が終わり、尻付岩屋の前をすぎると県道31号線とぶつかる。左折してサブザック行動開始地点である千燈寺駐車場まで戻ろう。

千燈寺駐車場からはメインザックへと切り替え、チーム行動で五辻不動茶屋を目指す。県道31号線を北へ進み、すぐに旧千燈寺跡の史跡を示す看板に従って左折し歩いていく。T字路はどちらを取っても五辻不動へと通じるが、本大会では旧千燈寺跡を巡るため右折する。アスファルト舗装の道路を歩きながら2軒ほど廃屋を通り過ぎると、「千燈寺跡駐車場500M先」と「保安林」の看板が表れるので、ここを左折して石段の先にある鳥居をくぐろう。するとまもなく「西行戻し(返し)」に辿りつく。西行とは平安時代末期の僧のことである。全国行脚の旅に出ている西行が、千燈寺の住職の器量を見ようと山に登ってきたときに、小僧を試したところ、しっかりとした返答をしたので、「小僧でさえこれほどであれば、和尚の器量は見なくてもわかる」と、和尚に合わず、後戻りしたという伝説から、ここを「西行戻し」という。こうした伝承はこのみならず全国にあるようだ。西行戻しから先も石畳の道をすすみ、鳥居をくぐった先にある「西の坊跡」の前をすぎると、「千燈寺跡(護摩堂跡)」へと到着する。旧千燈寺は「西の高野山」とも言われるほどであったが、戦国時代に大友氏の焼き討ちにあい、伽藍が消失。その後再建されたものの、往時の隆盛を取り戻すことは無く現在に至る。麓にある千燈寺は千燈寺の坊のひとつが麓に移転したものである。

さて、旧千燈寺跡をすぎたら「奥の院」を目指そう。長く続く石段を登りつめると奥の院へと到着する。その後は右側の道から五輪塔群を見ながら、仁聞の墓とされる国東塔を見て、車道へと合流する。この場所に仁聞の墓があるのは仁聞入滅の地が旧千燈寺の岩屋であるとされているためである。車道と合流して道なりに進むと、五辻不動茶屋があり、ここでチーム行動終了となる。駐車場で隊列を揃えて不動山・千燈岳を目指す。

五辻不動茶屋の駐車場から千燈岳登山道の看板に従い、木製の階段を進んでいく。すぐに展望所への分岐となるので、それを右に取って、五辻不動との分岐を目指そう。五辻不動との分岐を左に取るとアントニー・ゴームリーの彫像を見ることができる。この彫像は2014年に行われた「国東半島芸術祭」に際して設置された展示作品の一つであり、この芸術祭で設置された多くの芸術作品が国東半島の各地に残っている。

彫像の設置場所からは姫島方面の展望が良い。姫島の最高峰は「矢筈岳(266m)」である。姫島自体は単体の島ではなく、四つの小島が砂州でつながって一つの島を形成しており、約30万年以降に活動した七つの火山(矢筈岳(やはりだけ)火山、大海(おおみ)火山、金(かね)火山、稲積(いなづみ)火山、達磨山(だるまやま)火山、城

山（しろやま）火山，浮州（うきす）火山）から構成されている。こうした豊かな火山活動の痕跡や地形を生かした産業が認められ，2013 年には姫島を中心とした海域を含む東西 14km，南北 6km の区域が「おおいた姫島ジオパーク」として日本ジオパークに登録された。また，アサギマダラという色鮮やかな蝶の飛来地としても有名である。アサギマダラは，春と秋に海を渡って 1,000km 以上の旅をするという。5 月上旬から 6 月上旬，また 10 月中旬に，姫島に休息のため立ち寄る。



姫島は近年、「IT アイランド構想」でも盛り上がりを見せつつある。

さて，灯籠のある石段を注意しながら登った先には「五辻不動尊」があり，不動山（352m）の山頂である。岩屋にめり込むように建てられたお堂は立派なものである。この先の行動の無事を祈ったら，千燈岳を目指す。

しばらくは心地よい登山道が続き，379 ピークをすぎるとまもなく車道と合流する。登山道は車道を挟んで反対側に取り付けられている。車道を渡りしばらく歩くと千燈岳山頂に向けて，本大会最後の長くきつい登りがはじまる。最後の体力を振り絞って各チームの頑張る姿に期待する。長い登りを終えると千燈岳山頂（605.6m）である。

これより先は下りとなる。山頂直下からはしばらく幅の狭い階段が取り付けられており，道ははっきりしている。しばらく下ると熊ヶ岳方向にある小ピークとの鞍部に到着する。鞍部は案内板の茶色い柱が目印である。この場所を右に曲がり進路を西に取る。

やがて作業道となり，さらに流れに沿って下っていくと下山口である「一ノ瀬溜池」の南端へとたどり着く。そこから左折し，伊美川に沿って県道 31 号線を歩いていくとゴール兼入浴先の「湯の里 渓泉」である。この周辺は国東で有名な赤根温泉と呼ばれる一帯である，渓泉の他にも黒木山方面にはあかねの郷と呼ばれる温泉宿がある。ゴールまで無事にたどり着いたら温泉で汗を流し，登山行動の疲れを取ろう。温泉からは赤根山方面の展望が良いだろう。入浴後は双国校まで車で移動する。

○参考文献

- 1) 登山ガイド 新大分百山（三訂版）2020 年 11 月発行
- 2) 登山ガイド 大分百山（改訂版）2002 年 4 月発行
- 3) 国東半島山ガイド 豊嶺会編 2018 年 7 月発行
- 4) 国東半島峯道ロングトレイル公式サイト（<http://www.kunisakihantou-trail.com/>）最終アクセス日 2022 年 10 月 14 日
- 5) 日本ジオパーク公式サイト（<https://geopark.jp/geopark/oita-himeshima/>）最終アクセス日 2022 年 10 月 14 日

R4 高等学校新人体育大会登山競技（縦走） 予報2号

1. 日程・コース

10月29日（土）開会式・各種審査

（貸し切りバス 大型1台）

竹田高校 08:45 発 → 大分工業高校 09:45 発 →

11:45 双国校 着

12:00 監督会議・審判会議（管理棟） ※選手の昼食・待機場所（体育館）

14:00 開会式（体育館）

15:00 ペーパーテスト（管理棟 教室）

16:00 幕営審査（テニスコート）

17:00 炊事審査

21:00 就寝 ※チームごとに、1つの教室を利用

10月30日（日）登山行動 ※チーム行動区間以外はすべて隊行動

04:00 起床・準備

04:20 朝食（自炊）

05:45 校門前集合

06:00 出発

07:10 千燈寺駐車場（トイレ）



チーム行動

07:20 出発 ※隊行動開始（サブザック行動）

09:20 鷲巣岳（436.4m）

10:00 阿弥陀越

10:40 尻付岩屋

11:15 千燈寺駐車場（トイレ）

11:30 出発

12:20 不動茶屋駐車場（トイレ） 昼食・休憩



チーム行動

12:40 不動山（352m）

13:40 林道出合

14:40 千燈岳（605.6m）

15:30 千燈岳登山口（一ノ瀬溜池）

15:45 溪泉（入浴） ※入浴代金 400 円必要

17:00 双国校へ移動 ※タクシー他

18:00 夕食（自炊）

21:00 就寝

10月31日（月）閉会式

06:00 起床

07:00 朝食（自炊）

08:00 幕営地・校舎清掃

08:50 講演会「六郷満山文化と私の登山修行（仮題）」講師：大津春輝 氏

09:30 表彰式・閉会式（体育館）

10:20 双国校 発

（貸し切りバス）

→ 大分工業高校 12:20 着 → 竹田高校 13:20 着

2. 現地本部

幕営地名	期 日	電話番号
旧国東高校双国校	10月29日(土)	090-9575-7491
〒872-1402 大分県国東市国見町中 1350	～10月31日(月)	(専門委員長)

	施設名	所在地	電話番号
医療機関 (休日当番医)	福永胃腸科外科医院	国東市国東町鶴川	0978-72-3001
	松原医院	国東市武蔵町古市	0978-68-0010
警察関係	国東警察署	国東市国東町安国寺5番地	0978-74-0313
消防関係	国東市消防本部	国東市国東町北江3162番地1	0978-72-1101

3. 荒天対策 ※ 荒天状況によりコース変更あり

	第1日(10/29)の行動	第2日(10/30)の行動	第3日(10/31)の行動
第1日 荒天	計画通り	計画通り	計画通り
第2日 荒天	—	サブザック行動 (状況によりコース変更)	計画通り
第3日 荒天	—	—	計画通り

緊急避難場所	旧国東高校双国校 体育館
--------	--------------

4. 連絡事項

(1) 審査内容について

今大会の審査は全国高等学校登山大会<審査基準と指導目標>及び全国高等学校登山大会審査確認事例に準じます。また、すべての審査を実施します。

ただし、体力審査において、密を避ける観点から、行動中のチーム内メンバー間、パーティー間の開きについては、明らかな疲労や体力不足による遅れ以外は減点対象としません。

(2) 宿泊について

旧国東高校双国校(教室棟)にて、密を避けるために、1教室を1チーム(4名)で使用します。また、校舎は許可され場所以外には使用できません。

(3) 食事について

すべての食事は各チームで準備してください。また、屋外でのコンロの使用は可能です。

新型コロナ感染防止の観点から、炊事は原則、「個食」で対応してください。よって、大鍋での料理等は控えてください。今大会は、本来は推奨されていない「レトルトやインスタントの食品を単純に使用する」ことも可とします。

また、運営より、選手1人に対して「アルファ米」2個と「レトルトカレー」を2個、支給しますのでご活用ください。

(4) マスクの着用について

開閉会式、筆記審査時など屋内では、選手・監督・役員はマスクを着用し、手洗いや手指の消毒を心がけてください。

屋外での登山行動中は、マスクを外しましょう。また、登山行動中の休憩や食事の際は、周囲の人と十分な距離（2m以上）を保ってください。

(5) 感染防止対策として持参するもの

- ・体温計（「非接触型体温計」団体装備、または「体温計」個人装備）
- ・マスク（大会日数3日分）
- ・ゴミ袋（適量）
- ・携行用消毒液（アルコールジェル等）個人装備

(6) 携帯電話（スマートフォン）について

全国大会に準じて、大会期間中は使用禁止です。

(7) 健康確認について

引率者は、競技前に選手の健康状況（検温状況含む）を確認し、体調不良の選手については、保護者及び学校管理職に連絡の上、参加させないようにしてください。

当日受付において、健康チェック一覧表（高体連HPからダウンロード可）を提出してください。

(8) ヘルメットの用意

鷲巣岳の登山の際、安全のためにヘルメット（自転車用あるいは工事現場用も可）の着用を義務付けます。用意出来ない選手については、運営側で準備しますので、監督は必要数を専門委員長まで連絡してください。

令和4年度大分県高等学校新人大会 登山競技コース地図

